

2024 年 6 月 20 日

学校法人三幸学園
広島医療秘書こども専門学校
校長 大原 隆 殿

学校関係者評価委員会
委員長 中野 陽介

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 前原 みゆき（医療法人ハートフル アマノリハビリテーション病院 医事課課長）
- ② 常弘 嗣珠 （第 10 期卒業生）
- ③ 中野 陽介 （飛鳥未来高等学校 広島キャンパス 教務主任）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 20 日（会場 広島医療秘書こども専門学校 501 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 広島医療秘書こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 藤田 高広

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 中野 陽介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【重点課題】

・退学率の低減 ・学校生活における統一事項、指導内容の共通認識と指導の徹底

【指導強化項目】

・「挨拶」「言葉遣い」「報連相」

【数値目標】

・精皆勤率(1年生 65%、2・3 年生 55%) ・退学率(5%、12/249 人)

■結果

【重点課題】

・退学率の低減 ⇒○ ・学校生活における統一事項、指導内容の共通認識と指導の徹底 ⇒△
昨年度より退学率自体は下がった。今年の特徴として4月と早い段階で退学を考え始めた学生が多くなっている。統一事項についてどこまで実施するか、認識レベルの差が見受けられた。

【指導強化項目】

・「挨拶」「言葉遣い」「報連相」 ⇒×

特に報連相が問題である。欠時不良者、無断遅刻、無断欠席の増加。

【数値目標】

・精皆勤率(1年生 65%、2・3 年生 55%) ⇒×

・退学率(5%、12/249 名) ⇒×(5.2%、13 名)主な要因は学校生活不適應(目標喪失)である。

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

現存の理念・目的・育成人材像などは明確に決められており、情報公開もなされている。

社会経済のニーズや業界のニーズに向けた方向づけについては、長かったコロナ禍が終わりやっと現場に足を運べるようになったところということもあり、まだつかみ切れていない。2024 年からの働き方改革で変わり対応が必要なものを正確に把握し変化していかなければならない。

② 今後の改善方策

今はもちろんのこと、5 年後 10 年後と変化していく時代を想定し、学校教育により必要なことを集めなければならない。また既存のカリキュラムを全て見直すため、現場が目指すものと学校教育のギャップを確認していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（前原委員）

実際の現場でどのような人材が求められているかというと、知識はもちろんだが、長く務めてもらいたいという思いの方が強い。近年は簡単に諦めるような人が多い。報連相の話もあったが、「報告すること」ができていないことが多い。報告することで会話ができ、コミュニケーションも自然に取れるので人間関係の構築にもつながる。

2024 年 2 月から電子カルテの導入が始まり、最初は慣れず難しかった。電子カルテは医師の負担が多いため、そこに対する知識は必要になってくる。どのように医師の負担を軽くしていくかが、今後の課題となる。

マイナンバーの利用率もなかなか増えないため、そこに対する業務効率の向上もあまり見られないのが現状ではある。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

業務の効率化についてはまだまだ改善の余地があると感じる。

② 今後の改善方策

前年度踏襲のものや、便利と分かっているけど導入する手間を考え手を付けていないものなどを積極的に試して実施してやってみること。また、やることが目的になりやらなくても支障ないものは思い切って削減していくようにする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（中野委員）

高校分野も情報化(ICT)は急速に進んでいる。生徒の課題も紙媒体ではなく、全てデジタル化している。三幸学園は全国に姉妹校があり、単体の学校ではないので、そういった意味では全国のネットワークが使い切れていないように感じる。広島地区というところ来说うと、縦のつながりはあっても、横のつながりが少ないように感じる。ITの専門学校等に情報収集としてつながりを持てば、よりよい効率化が図れるのではないかな。もっと情報収集をしっかりとっていくべきだと感じている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

オンラインを使用した全教職員向けの授業力向上のための研修を実施していることで、最低限の授業の質担保はできていると感じるが、専門分野の教員の数少なく採用に苦戦している。

② 今後の改善方策

引き続き採用活動は年中行っており、卒業生や実習就職でお世話になっている取引先にもあたっているがなかなか確保まではいかない。非常勤講師などの伝手も使いながら、学生にとって最善の環境で授業が受けられるように努めていきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(前原委員)

医師事務に関しては、外部から採用している形ではなく、病院の中で教育をしている形ではあるが、採用しすぐに医師事務として医師に付くというのは難しい。実際退職者が複数人出ている状況。病院の中で教育はしているが、時間もかかるため、専門学校でしっかりと知識を身に付けた人材はとてもありがたい。

大きな病院では医師事務という立場で雇っていることはあるが、現状なかなか難しい状況ではある。

(金さん)

現在の医療秘書科 2 年生で医師事務コースを選んでいる生徒が 30 人ほどいる。医師事務になりたいと思ってこのコースを選んでいる生徒に対して、医師事務としての知識を教えることのできる教科担当がなかなか見つからないのが現状。教えることに長けている人で退職された方など、いたら紹介してほしい。

(前原委員)

退職した人は次の勤務先が決まっている人がほとんどなので専門学校で授業ができる人はなかなかいないかと思う。業務を教えるのが得意な人はいるので、業務提携というような形で講師として専門学校に教えに来るというのは理想ではあるが、現時点は難しい。

(常弘委員)

勤務しているクリニックでは電子カルテの導入はしておらず、紙カルテを使用しているので、医師事務はいない。だが、医師の手伝いという形で時折、そういった業務をすることはある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

1年生では入学後すぐに退学を検討するなどの事例が増えてきている。以前はなんとなく医療事務ではないといった、思い描いていた職業内容と入ってからギャップによる退学があったが、現在は日常生活（学校に来ること、基本的な生活習慣）や集団生活（クラス、ペアやグループワークなど）が起因で退学を考えるケースが増えてきた。

② 今後の改善方策

早期に対策できるよう、入学前の情報収集や入学後すぐ面談を実施し本人の状態把握と保護者からの情報提供を行えるようにする。また可能な限り集団生活のストレスを感じないように配慮しているが、就職後のことを考えると配慮しすぎるのも難しいと感じている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（中野委員）

退学率軽減については、信頼関係の構築が一番大切である。いかに早く学生と保護者からの信頼を得るか。昨今の生徒はコロナ禍を経験してきた子供たちのため、コミュニケーション等が不安なことも多い。信頼関係を築くために今一番大切なことは、ソーシャルスキルトレーニングだと思う。まずは信頼関係を築くこと。生徒よりも保護者と築くことも大切。入学をしてから一ヶ月以内に、保護者全員と必ずコンタクトを取るようにして、コミュニケーションをとるようにしている。そうすることで、何かがあったときに協力してくれるようになる。

学生からの信頼を得るために工夫していることは、個人的には、良い意味でフランクにしすぎないこと。丁寧に接すること（リスペクトすること）で「この先生は信頼できる」と生徒に思ってもらえるようにしている。それが倫理観の育成にもつながると考える。

（常弘委員）

離職率はとても高い。離職する人の特徴で挙げられるのは、医師と合わない、患者さんと話すことが難しい、自分からコミュニケーション取ることができない等が多く感じる。挨拶など、基本的なコミュニケーションを取ることが出来ない場合はとても困る。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

卒業生に対する支援として、アプリや LINE の登録を促し学校から発信しているが、実際活用されたケースはあまりない。高校等との連携によるキャリア教育・職業実践の取り組みについてはもっと活発に行っていきたい。

② 今後の改善方策

もっと高校等との連携を行うことで学校の認知拡大ができると考える。さらに職業のなり手を増やすためにも高校のニーズを把握し互いにとって Win-Win の関係を築きたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（中野委員）

広島キャンパスというところというと、医療秘書科に進む生徒が少ないように感じる。もっと医療秘書科の魅力はあるはずなのに、それを伝えきれていない部分はある。そこをしっかりと伝えていくことで、医療秘書を目指す生徒は増えていくと感じる。例えば、卒業生に講話に来てもらうなど。説得力があり、魅力が伝わりやすいように思う。

（常弘委員）

出身校に呼ばれて講話したという経験は今のところない。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

引き続き学外実習施設の確保に苦戦している。

② 今後の改善方策

現場に足を運び関係構築に力をいれる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（中野委員）

実習開拓について、自身も企業開拓をした身ではあるが、訪問し開拓をしていた。だが、訪問での開拓は業務分量など教職員にとってはハードルが高いのもどかしさがある。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

今年も定員を超えた人数に入学していただいているが、年々医療事務を志す学生が少なくなってきている。

また経済的事情などで就職を選ぶ学生もいるため、今後の募集に対する対策も考える必要がある。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（前原委員）

中途採用の人材はいろんな職種の方を採用する。本当にいろいろな業界で働いていた人を採用している。「人との関わりが好き」「人の役に立つ仕事がしたい」といった理由で志望する人が多い。医療事務という仕事をそんなに知らずに、受付のみをやるものだと思って志望する人が多い。そのため、実際に働くとギャップが生まれ、離職する場合もある。覚えることがたくさんあるので、勉強が好きな人の方が向いているように感じる。

（常弘委員）

患者や医師に強い口調で注意をされることもあるので、そういった部分に耐えられるメンタルがあるかどうかも大切。その分、自分たちに優しくしてくれる人や、感謝をしてくれる人もたくさんいるので、そういったところにやりがいを感じる。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

引き続き教職員へのコンプライアンスに対する理解に努める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

ボランティア活動の支援はできていない。

② 今後の改善方策

何か地域貢献できることや職業に繋がることがあれば機会提供を行いたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2023 年 5 月 8 日より新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行になり、ようやく規制のない日常になった。ただその間に学生の生活習慣や考え方の変化、医療現場の変化、高校生の職業選択の変化など、様々なことが変化している中、特に医療現場の変化について把握できていないことが多くある。広報活動から日々の教務、出口になる就職やその後の社会人としての活躍を考え、今何が必要かを改めて考えなければならない。また、目先のことだけではなく国全体が目指す方向をふまえてよりよい教育が提供できるように既存のシステムを見直すことも必要だと考える。専門性を持った学生を輩出する教育機関として、現場で活躍できる人材を育てるため更に精進していかなければならない。